

平成25年度 事業報告

今日、少子高齢化や核家族化の進行、生活様式の多様化など社会情勢の変化に伴い、私たちの身の回りの地域社会や家庭の様相は大きく変容している。福岡市においても、都市部においては集合住宅を中心に住民の入れ替わりが多く、地域コミュニティの希薄化が進んでいる。

このような中、制度の谷間にある複合的な課題を抱えている人も存在しており、公的サービスだけでは解決できない問題に対して、より柔軟な福祉サービスの構築や住民相互の支え合いの強化が求められている。

本会では、市民一人ひとりの参加と支え合いにより、誰もがその人らしく安心して暮らせる福祉のまちづくりの実現に向けて、「第4期地域福祉活動計画」や「社協起動プラン」に基づきながら地域支援や個別支援にこれまで以上に重点的に取り組んだ。特に、地域住民と連携して、複雑な生活課題を抱える個人に対して問題解決へつなげる「地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業」をはじめ、判断能力が不十分な人を住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援する「日常生活自立支援事業」、「ずーっとあんしん安らか事業」、「成年後見支援事業」によるあんしんシステムを構築するなど、より個別支援に踏み込んだ取り組みを積極的に展開した。

さらに高齢者の生きがいづくりや社会参加を促進するための「介護支援ボランティア事業」や「シニア地域サポーターモデル事業」等を通じ、新たな福祉の支え手づくりについても重点的に取り組んだ。

そして、今後の事業展開の方針を明確にした「経営計画」を新たに策定し、社協の使命を果たすために組織としてどのように経営を進めていくべきかを組織の内外に示した。

平成25年度の主な事業の実施状況は以下のとおりである。

【重点項目】

- 1 シニア世代のボランティア活動参加推進
 - (1) シニアアシストふくおか事業〈新規〉
 - (2) シニア地域サポーターモデル事業〈新規〉
 - (3) 介護支援ボランティア事業
- 2 あんしんシステムの構築
 - (1) 日常生活自立支援事業
 - (2) ずーっとあんしん安らか事業
 - (3) 成年後見支援事業
- 3 地域福祉活動の充実
 - (1) 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業
 - (2) ふれあいネットワーク・サロンの拡充に向けた取組み
 - (3) 生活支援サポーターモデル事業
 - (4) 地域福祉活動支援に役立つツールの提供
- 4 社協起動プランの実行
 - (1) 職員研修の充実
 - (2) 自己研鑽の支援
 - (3) 人事評価システムの構築
 - (4) 課題検討会議の実施
- 5 経営計画の策定〈新規〉

重点項目

1 シニア世代のボランティア活動参加推進

(13,543千円)

(1) シニアアシストふくおか事業〈新規〉

シニア世代（50代以上）のボランティア活動希望者とシニアを受け入れるボランティア団体等の登録制度を発足させ、シニアの活躍の場を広げるための支援を行った。登録対象とする分野を福祉に限定せず幅広く設定し、また活動団体についてもNPO法人も登録可能とした。さらに、活動希望者のニーズをきめ細やかに把握し、積極的な活動紹介を行った。

○個人登録者数：72人

【内訳】	活動先につなぎ調整終了	39
	活動調整中	17
	本人都合による活動調整休止中	15
	活動中止	1

○団体登録数：42団体

【内訳】	福祉	7団体	環境	8団体	健康	1団体
	教育	2団体	まちづくり	5団体	災害救援	1団体
	健全育成	2団体	男女共同参画	1団体	芸能	15団体

○広報紙の発行

〔発行回数〕3回（6月・10月・2月）

〔発行部数〕3,000部/回

(2) シニア地域サポーターモデル事業〈新規〉

シニア世代のボランティア活動希望者を、ふれあいネットワーク・サロンなどの地域福祉活動の参加に結びつけるために、以下の手法によりコーディネートした。区社協職員が手厚くコーディネートすることが活動に結び付く大きな要因であることを実証的に確認することができた。

コーディネート方法	活動開始者数	備考
ボランティアバンク登録者や介護支援ボランティア登録者を職員が直接活動につなぐ	8	
ふれあいサロン等の現場体験を含めた講座を開催し、修了後の受講者を区社協職員が具体的な地域福祉活動へ丁寧につなぐ	109	・講座受講者217人 ・活動開始率50%
合計	117	

(3) 介護支援ボランティア事業（市委託事業）

65歳以上の高齢者の社会参加、生きがいつくりや介護予防をすすめるために、介護保険施設等でボランティア活動を奨励した。また、活動により付与されたポイントは換金または寄付に活用していただいた。

〔登録施設〕 350施設

〔個人登録者〕 1,312人

〔平成25年中の活動者（ポイント所有者）〕 762人（個人登録者の62%）

〔平成25年中の活動内容〕

活動種別	のべ人数	活動種別	のべ人数
レク・囲碁将棋	4,486	食事介助の補助	189
芸能	2,859	行事の手伝い	114
話し相手	2,301	入浴介助の補助	93
清掃・衣類整理	488	その他	818
合 計		11,348	

〔ポイント換金申請者〕 495人

【内訳】

奨励金交換 391人 1,282,400円

本会へ寄付 104人 195,200円

申請者合計 495人 1,477,600円

※1日1時間以上の活動=200ポイント=200円に換金。換金の上限は年間5,000円まで。

2 あんしんシステムの構築

(79,204千円)

(1) 日常生活自立支援事業

認知症や知的障がい、精神障がいなどで判断能力が不十分な人の権利を擁護することを目的とし、地域で自立した生活をするができるよう、契約に基づき、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理などを行った。

〔相談件数〕 626件

〔調査件数〕 346件

〔新規契約件数〕 183件（前年度からの相談も含む）

〔累計契約件数〕 1,198件（平成12年1月～）

※事業開始からの累計解約件数705件（死亡・施設入所等による）

〔現契約件数〕 493件

【内訳】

認知症高齢者	283件
知的障がい者	89件
精神障がい者	119件
その他	2件

(2) ずーっとあんしん安らか事業

近くに親族がいない一人暮らしの高齢者を対象に、地域で安心して生活をするができるよう、契約に基づき定期的な見守りや入退院の手伝いなどを行うとともに、契約者が死亡した場合には、事前に預かった預託金で葬儀・家財処分等の死後事務を行った。

〔相談件数〕 120件

〔新規契約件数〕 35件

〔現契約件数〕 56件（うち、公正証書遺言書作成件数14件）

〔葬儀・家財処分実施数〕 2件

(3) 成年後見支援事業

親族や専門職による成年後見人等が得られにくい人に対し、家庭裁判所の審判を経て、本会が法人として成年後見人等に就任した。また、福岡市から委託を受けて「市民後見人養成研修」を実施した。法人後見の実施にあたっては、市民後見人養成研修修了者の中から、実務担当者として本会に登録・採用された「市民参加型後見人」が業務の一翼を担った。

① 法人後見事業

親族や専門職による後見人が得られにくい人に対して、家庭裁判所から法人として後見人等の選任を受け、後見業務を行った。また、後見人等の受任に関する審議や後見業務の監督等を行う「成年後見運営委員会」を開催した。

○後見等受任件数

〔新規受任件数〕 17件

〔累計受任件数〕 27件（平成24年度～）（※終了3件）

〔現受任件数〕 24件

【内訳】

認知症高齢者	22件
知的障がい者	2件
精神障がい者	0件

○成年後見運営委員会 年6回開催

② 市民後見人養成事業（市委託事業）

成年後見制度の担い手として地域住民の視点で支援を行う「市民後見人」を養成するための研修事業を福岡市の委託事業として実施した。また、研修修了者を本会が実施する法人後見事業の履行補助者（＝市民参加型後見人）として活用するため、「市民参加型後見人バンク」を設置し、希望者を、福岡市の推薦を得てバンクへ登録した。

〔実施期間〕 平成25年8月22日（木）～12月26日（木）（全13日間）

〔会場〕 市民福祉プラザ他

〔受講者数〕 50人（一般公募で応募があった64人より抽選で決定）

〔修了者数〕 47人

〔市民参加型後見人バンク登録者数〕 42人

〔 〃 〃 累計登録者数〕 87人（平成24年度～）

③ 制度の普及・啓発

成年後見制度の普及・啓発を図るため、市民や関係機関に対して出前講座等を行った。

〔実施回数〕 13回

〔参加者数〕 合計 793人

〔対象者〕 民生委員・児童委員協議会、校区社協、介護事業所内部研修 等

〔内容〕 「成年後見における社協の役割」「日常生活自立支援事業と成年後見制度」

3 地域福祉活動の充実

(56, 143千円)

(1) 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業（市委託事業）

福岡市の委託事業（平成23～25年度）として、福岡市が選定した団地、戸建て等居住形態の異なる市内7校区1地区のモデル校区に5人の専任職員を配置し、地域の特性に合わせた高齢者等の見守りの仕組みづくりに向けて、校区活動者等の支援を行った。また、対応が困難な個別ケースへ活動者と一緒に関わるなど、個別支援にも取り組んだ。

① モデル校区とその支援実績

校区・地区名	成 果
<p>[東区]</p> <p>城浜校区 (公営団地)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動の実施状況確認、活動者のスキルアップ研修、活動の改善策の協議などを行う福祉座談会（「つながりマップ会議」）を開催（年10回）。 ・地域住民に見守りの啓発を行うため「校区版見守りマニュアル」の作成支援。 ・1町でシニア世代を中心とした生活支援ボランティアグループ（会員16人）の立ち上げを支援。月平均4件の依頼を受け、高齢者等の困りごとの解決に取り組んでいる。 ・モデル事業終了後に見守り活動を推進する体制（各町つながりマップ委員を創設）を構築。 ・コミュニティ政策学会（平成25年7月6日）、市民福祉講演会（平成25年9月20日）、新宮町ひとり暮らし高齢者等見守りネットワーク研修会（平成26年1月23日）での活動者による実践発表の支援。
<p>[南区]</p> <p>東若久校区 (戸建て)</p> <p>★は南区役所の「地域福祉ネットワークづくりモデル事業」と共働で取り組み。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★ふれあいネットワークによる平常時の見守り体制を活用し、災害時の支援体制づくりのワークショップを開催（1回）。各要援護者に対して災害時の支援者の組み合わせ決めや、支援体制を検証するため、校区防災訓練の中で要援護者に対する訪問や電話による安否確認訓練の実施を支援。 ★平成24年度に作成した「ふれあいネットワーク活動マニュアル」の内容や見守りに関する研修会を実施（175人参加）。30～40代の若い世代も40人程度参加し、広く校区住民への意識啓発につながった。 ★各町の見守り実施状況を確認するため、活動者によるワークショップを開催（1回）。各町の活動者自身が、現状や課題、今後の目標を確認することができた。 ・公民館とまちづくりフォーラム（平成25年6月1日）、市民福祉講演会（平成25年9月20日）、佐賀市東与賀町の視察対応（平成26年1月31日）での活動者による実践発表の支援。
<p>[南区]</p> <p>東花畑校区 (戸建て)</p> <p>★は南区役所の「地域福祉ネットワークづくりモデル事業」と共働で取り組み。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区生活支援グループ「たすけ愛隊」の立ち上げ（会員43人）を支援。低額有償の支え合い活動として活動を開始、月平均5件の依頼を受け、高齢者等の困りごとの解決に取り組んでいる。 ★災害時・平常時の支援体制づくりの進め方を示した「地域福祉“5愛”推進会活動マニュアル」の作成支援。 ★各町の見守り実施状況を確認するため、活動者によるワークショップを半年に1回定期的に開催（2回）。各町の活動者自身が、現状や課題、今後の目標を確認することができた。 ★校区の高齢者等支援の仕組みづくりを検討するため、各団体の代表者による会議（「地域福祉“5愛”推進会」）を開催（年12回）。 ・城南区校区社協リーダー研修会（平成26年1月31日）での活動者による実践発表の支援。
<p>[城南区]</p> <p>城南校区 (UR団地・戸建て)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいネットワーク立ち上げや再構築支援（5町）、活動継続支援。見守りに役立つツールの提案及び作成。 ・福岡市見守りダイヤルの先行事業としてNPOと連携して実施。緊急時の通報先の缶バッジを1,093個配布。 ・高齢者の居場所（ソフトダーツ会、健康マーじゃん）の立ち上げ支援。 ・地域と高齢者施設が協働した地域住民が集う場「カフェサロン」の立ち上げ支援。 ・コミュニティ政策学会（平成25年7月6日）、城南区校区社協リーダー研修会（平成26年1月31日）での活動者による実践発表の支援。

<p>[城南区] 金山団地 (UR団地)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいネットワークの重層化を目指し、見守りネットワーク組織を構築するため対象者と活動者のマッピング。 ・見守り活動者を確保するために住民に協力を依頼、町内の青少年連合会や子ども会の会員の協力者を獲得し、若年層の見守り活動者を巻き込むネットワークを構築。
<p>[早良区] 大原校区 (UR団地・戸建て)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区を3ブロックにわけ、ブロックごとに課題を共有する中で、プログラム選択型のふれあいサロン立ち上げを支援。ふれあいネットワークとも連動し、サロン参加者を見守り対象者に加えるなど、ネットワークの充実にもつながった。 ・団地内の見守りを進めるため「団地ふれあいサロン」のチラシやポスターの作成を支援し、利用者自身にも口コミで利用者を増やす役割があることを訴え利用者・ボランティアの増加につながった。 ・団地モデル棟にて住民への見守りアンケートを実施し、棟委員やボランティアによる見守り活動の立ち上げ支援(7棟)。モデル棟同士の情報交換会の実施。 ・見守り対象者とボランティアが交流するサークル「絵手紙の会」の立ち上げ支援。
<p>[西区] 西陵校区 (戸建て)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各町の活動報告と活動上の課題を協議する、高齢者対策会議の開催支援(年4回)。 ・高齢者対策会議で出された課題解決のための研修会「元気な高齢者を増やそうプロジェクト～集会所で気軽にできる健康体操講座～」の開催支援。 ・見守り対象者が少ない町内に対して、「見守りマップ」を活用した対象者の掘り起こしの提案及びマップ作りの支援。8人の対象者が34人に増加。 ・エレベーターがない公営団地のみで構成された町内で、ゴミ出し支援を通じた見守り活動の立ち上げを支援。2か月に1回の情報交換会の開催の提案、実施の支援。
<p>[西区] 周船寺校区 (戸建て)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「絵手紙の会」組織化等により、校区の地域福祉事業に関わる人材が増加(校区独自の登録ボランティアシステム「ちよいボランティア」登録者数増加)。 ・校区内の企業、店舗、医療機関等にふれあいネットワークへの協力を呼びかけ、協力企業が4社から23社に増加。 ・「ふれあいネットワーク活動個人情報の手引き」を作成したことにより、各町の見守り対象者がいる組長に対象者簿を配布することが共通認識され、組長活動に見守りを組み込むことができた。

※モデル校区指定時期：平成23年8月(城南区のみ平成24年6月)

② 地域活動支援の実績

	地域活動に関する相談	地域会議への参加	地域行事への参加	連絡調整	情報交換
件数	308	824	344	672	616

③ 個別支援の実績

	個別ケースに関する相談	訪問対応	ケース会議への参加	連絡調整	他機関へのつなぎ
件数	299	405	28	881	129

④ モデル事業評価委員会の開催

地域福祉ソーシャルワーカーの機能やモデル事業の効果等について検証・評価を行うため、学識経験者や地域団体役員の代表者等で構成される評価委員会を開催した。
(第1、2回は平成24年度に実施済)

実施日	主な議題
<第3回> 平成25年 6月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書の構成(骨子)について ・アンケート調査結果について
<第4回(最終回)> 10月7日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業分析について ・評価委員会報告書(素案)について

⑤ 見守り推進シンポジウムの開催

福岡市との共催により、モデル事業の報告会を兼ねたシンポジウムを開催し、モデル校区での実践を広く市民に周知した。

実施日	参加者数	内容
平成26年 3月14日(金)	260	<p>【基調講演】 「地域をつくる、福祉をつくる、生き方をつくる」 小野 達也 氏 (大阪府立大学人間社会学部准教授)</p> <p>【パネルディスカッション】 「地域での見守りの実践を通して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での見守り実践報告 ・ディスカッション

⑥ 「見守りの仕組みづくりマニュアル」の作成

モデル校区で実践した見守りの仕組みづくりが他地区の活動者や支援者の参考になるように、手法やツール、取り組み事例等を整理した「見守りの仕組みづくりマニュアル」を作成した。

部数	配布先
5,000部	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市、区役所 ・政令市社協、福岡県社協、福岡県内市町村社協 ・各校区自治協、校区社協 ・各民生委員・児童委員 など

(2) ふれあいネットワーク・サロン等の拡充に向けた取り組み

① ふれあいネットワーク活動

一人暮らしの高齢者など、援助を必要とする人々が地域で安心して暮らすことができるよう、地域住民や関係機関が連携して、日常的な見守りなどの支援体制づくりに取り組む「ふれあいネットワーク活動」の更なる充実に向け、区社会福祉協議会とともに活動を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

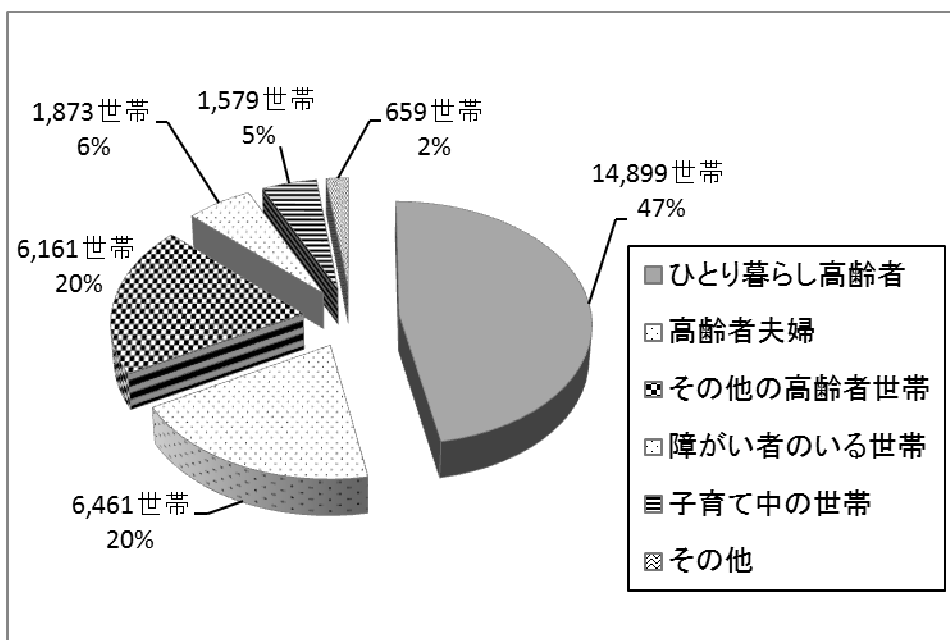
[助成額] 17,494,612円

[活動状況]

(平成26年3月末現在)

区	校区数	助成校区数	実施校区数	助成自治会数	実施自治会数	対象世帯数	ボランティア数
東 (前年比)	27	25	26 (1)	344 (9)	344 (3)	7,425 (289)	2,455 (204)
博多 (前年比)	22	21	21	309 (△1)	309 (△1)	4,631 (△2,118)	1,245 (△135)
中央 (前年比)	14	11 (△1)	13	250 (△15)	275 (△14)	4,028 (△255)	905 (△446)
南 (前年比)	25	24	24	298 (18)	298 (18)	4,260 (151)	1,748 (27)
城南 (前年比)	11	11	11	149 (△11)	149 (△11)	2,710 (219)	1,330 (△5)
早良 (前年比)	24	17 (1)	22 (4)	178 (10)	218 (25)	4,101 (558)	1,350 (199)
西 (前年比)	23	20 (2)	21 (2)	143 (13)	143 (7)	4,477 (285)	1,611 (165)
合計 (前年比)	146	129 (2)	138 (7)	1,671 (23)	1,736 (27)	31,632 (△871)	10,644 (9)

[ふれあいネットワーク事業対象世帯内訳]



[活動内容内訳]

活動内容		世帯数
安否確認・声かけ・話し相手		29,158
保健福祉サービスの紹介		2,991
生活の支援	ゴミ出し	574
	電球の取り替え	226
	買物代行・薬取り	184
	家事援助 (掃除・洗濯・炊事など)	78
	外出援助 (通院・買物付添など)	187
	急用時のこどもの送り迎え・預かりなど	13

② ふれあいサロン活動

一人暮らしや身体機能の低下等により、家に閉じこもりがちな高齢者等の孤独感の解消や介護予防等を目的として、地域のボランティアが公民館や集会所などで、レクリエーションや、仲間づくり・交流・ふれあいの場を広げる「ふれあいサロン活動」の拡充を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

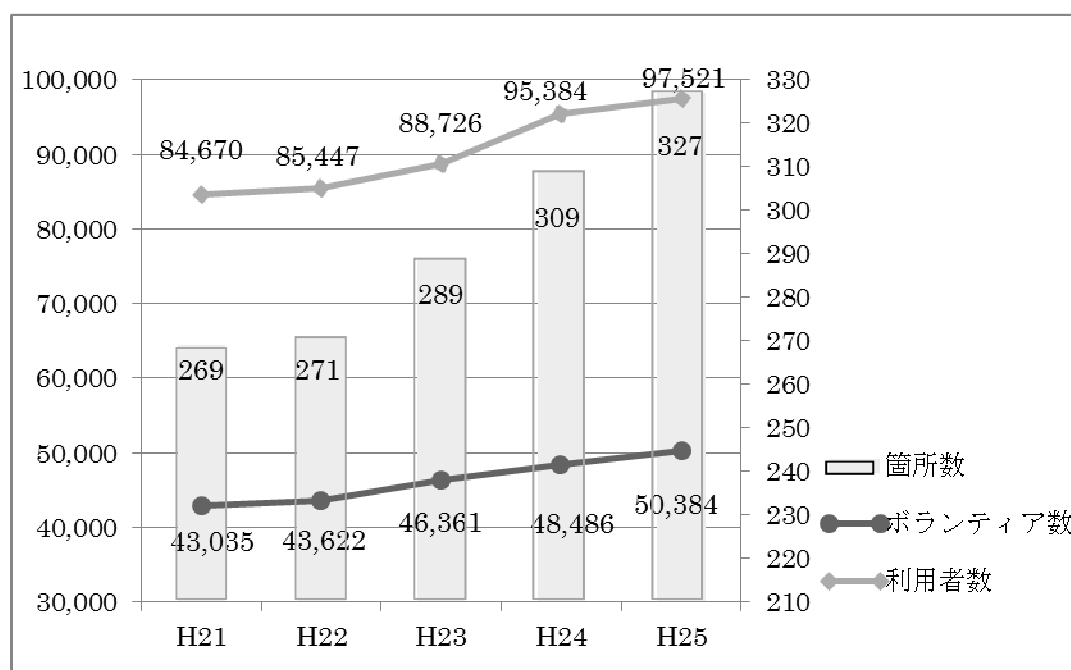
〔助成額〕 18,946,642円

〔活動状況〕

(平成26年3月末現在)

区	校区数	助成校区数	箇所数	のべ利用者数	のべボランティア数
東 (前年比)	27	27	73 (3)	25,462 (△303)	12,184 (△642)
博多 (前年比)	22	20 (1)	31 (1)	10,648 (△129)	4,131 (109)
中央 (前年比)	14	12 (△1)	20 (△4)	4,098 (△874)	2,616 (△429)
南 (前年比)	25	23	38 (1)	11,168 (△276)	5,572 (322)
城南 (前年比)	11	11	43 (3)	9,429 (△64)	5,071 (418)
早良 (前年比)	24	24	53 (4)	16,625 (1,354)	11,299 (941)
西 (前年比)	23	22	69 (10)	20,091 (2,429)	9,511 (1,179)
合計 (前年比)	146	139	327 (18)	97,521 (2,137)	50,384 (1,898)

〔ふれあいサロン事業助成箇所数、ボランティア数、利用者数の推移〕



③ ふれあいサロン活動アンケート調査の実施

ふれあいサロン活動の拡充に向けた支援策の立案や今後の地域福祉活動の発展・強化に役立てるための基礎資料を得るため、現在ふれあいサロン活動を実施している団体にアンケート調査を実施した。

〔調査方法〕 各サロンに郵送し、郵送またはFAXで回収

〔調査時期〕 平成25年8～9月

〔調査対象〕 ふれあいサロン活動を行っている団体

〔配布数〕 323

〔有効回収数〕 292（有効回収率：90.4%）

（3）生活支援サポーターモデル事業〈新規〉

① 生活支援サポーターの養成

公的サービスでは対応できない、高齢者や障がい者等が抱える“ちょっとした困りごと”の解決を行うための人材「生活支援サポーター」を養成し、その人材と地域・個人とをコーディネートするモデル事業に取り組んだが、人材確保や依頼の把握が進まず、ノウハウの蓄積まで至らなかったことから、課題を分析し、今後の新たな生活支援サービス提供の仕組みづくりに活かしていく。

② 生活支援グループ組織化の支援

生活支援に取り組むボランティアグループの組織化支援は重点的に実施し、平成25年度には8団体が活動開始し、うち4団体に「あんしんサービス創造モデル事業」によりグループ立ち上げ時の初期費用を助成した（助成金額600,134円）。

また、現在福岡市内で活動するグループの状況調査を行い、結果をまとめた事例集を作成・配布しPRを行った。

（4）地域福祉活動支援に役立つツールの提供

① 「緊急時連絡カード」の配布

緊急連絡先やかかりつけの病院などを記入して外出時に携帯することで、急な事故や病気で本人が連絡先などを伝えることができないときに活用できるカードを作成し、配布した。

〔配布数〕 30,132枚

② 「社協ワーカーだより」の発行

地域の活動者や関係機関に向けて、社協職員（ワーカー）の動きや社協事業について情報発信する情報紙を毎月1回発行した。

〔配布先〕 民生委員・児童委員、地域の活動者、いきいきセンター 等

③ 「買い物支援ハンドブック」の作成

外出や買い物に課題を抱える人の支援を目的として、店頭で購入した商品を配達してくれる店舗の情報等を掲載したガイドブックの作成に福岡市内全7区で取り組んだ。

(5) 個別ケースの支援強化

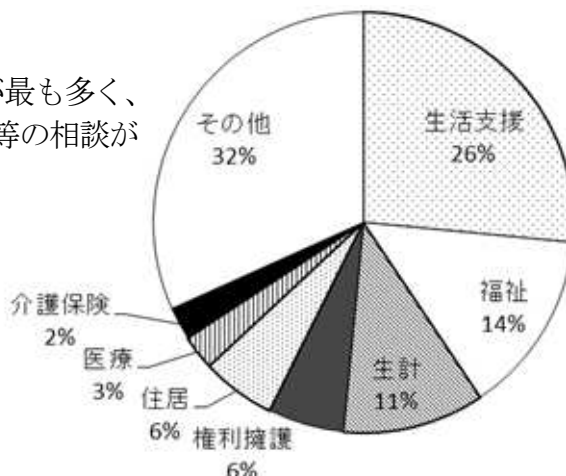
相談先がわからなかったり、制度の狭間にあり制度での対応が難しかったりする人や、各種関係機関などからの相談を受け、解決に向けた支援を行った。

① 個別ケース相談件数：788件

区	東	博多	中央	南	城南	早良	西	合計
件数	178	121	102	127	38	149	73	788

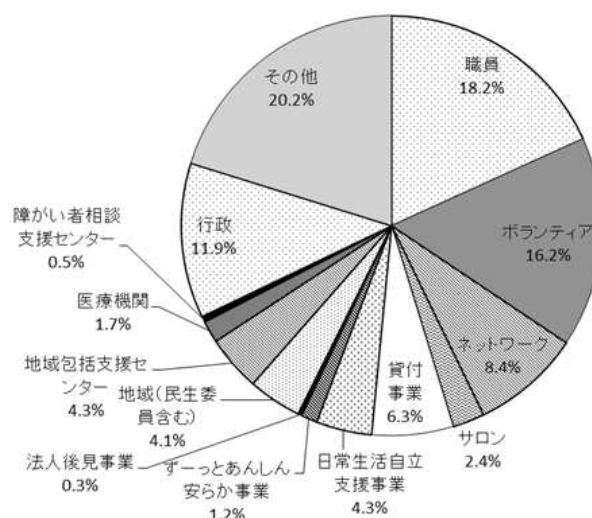
② 相談内容

「生活支援」の相談が最も多く、次いで「福祉」「生計」等の相談が寄せられた。



③ 対応

相談に対する対応としては、社協職員のみで支援した以外にも、「ボランティア」や地域の「ネットワーク」、「行政」や「地域包括支援センター」など関係機関と連携して対応したケースも多くあった。



4 社協起動プランの実行

(3,377千円)

(1) 職員研修の充実

職員の資質向上を図るため、職員研修体系に則り、計画的に研修を実施した。

① 階層別研修

対象	実施日	内容
主任級職員	平成25年 10月10日(木)・11日(金)	「『主任の役割』について」 講師：富永 進 氏 (一般社団法人日本経営協会講師)
係長級以上職員	平成26年 2月24日(月)	「リーダーシップ研修」 講師：平川 健一 氏 (株式会社社員教育研究所講師)
一般職員	3月 3日(月)	「仕事の進め方研修」 講師：長菅 隆義 氏 (株式会社インソース講師)

② 地域福祉専門職研修

実施日	内容
<第1回> 平成25年 8月8日(木)・9日(金)	「地域福祉ソーシャルワーカー実践報告」
<第2回> 11月9日(土)	「支え合いマップづくりについて」 講師：木原 孝久 氏(住民福祉総合研究所長)
<第3回> 平成26年 2月17日(月)・25日(火)	「おたがいさまコミュニティづくり検討体験会」 講師：南 伸太郎 氏(公益財団法人九州経済調査協会研究主査) 他

③ 社協職員セミナー

実施日	内容
<第1回> 平成25年 12月20日(金)	「社会福祉協議会の進む道 ～地域包括支援センターと社協～」 講師：小川 全夫 氏(九州大学名誉教授)
<第2回> 平成26年 1月9日(木)	「コミュニティで創る新しい高齢社会デザイン ～2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術～」 講師：南 伸太郎 氏(公益財団法人九州経済調査協会研究主査) 他
<第3回> 2月14日(金)	「福岡市の施策の方向性と平成26年度新規事業」 講師：平田 俊浩 氏(保健福祉局高齢社会政策課長)

(2) 自己研鑽の支援

職員の専門性を高めるため、国家資格等の取得にかかる受験手数料等の助成を行った。

資格名	受験手数料	登録免許税・登録手数料
社会福祉士	7件	7件

(3) 人事評価システムの構築

起動プランで示した方向性実現のための役割意識を持つ人材を育成するため、内部プロジェクトで検討を重ね、人事評価制度を構築した。平成25年11月～平成26年2月まで試行的に実施し、平成26年度からの本格実施に向けた準備を行った。

(4) 課題検討会議の実施

業務を遂行する上での様々な課題について、毎月1回定期的に会議を行い検討した。

5 経営計画の策定〈新規〉

(7,791千円)

平成25年3月に策定した「起動プラン」を具体化していくとともに、第5期地域福祉活動計画策定にあたっての基礎的なデータとするために、本会の事業や今後の組織体制、財源などを考える中長期の経営計画を策定した。

重点事業を明確にすることはもとより、補助・委託事業の見直し、プロパー事務局長の登用など、自立に向けた方策を示した。

事業項目

1 地域の支え合い活動の充実を図ります

住み慣れた地域で、誰もが健やかに安心して暮らせる「ともに支えあう福祉のまち」をめざし、校区社会福祉協議会を中心とした地域福祉活動を推進した。

また、校区社会福祉協議会や民生委員・児童委員など、地域の見守り活動を行う組織への相談・支援を行う地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業を実施した。

(1) 校区社協とともに進める福祉のまちづくり (58,098千円)

市民の福祉ニーズに対応した地域福祉・在宅福祉活動を一層促進するため、その推進役である校区社会福祉協議会の充実・強化に向け支援した。

① 校区社協への活動支援（共同募金配分事業）

区社会福祉協議会と共働し、校区社協の実情にあった福祉活動を推進するために共同募金配分金を財源とし、事業運営や資金を支援した。

[助成額] 52,450,396円

② 校区福祉座談会の開催

地域の課題や福祉活動の現状について情報を共有し、地域の中で取り組むことができる解決方法等を住民主体で考える座談会の実施を支援した。

[実施数] 15校区 26回

③ 校区社協広報活動への支援

校区社協が住民の福祉に対する理解と関心を高めることを目的に行う広報紙発行事業を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

[助成額] 5,127,025円

区	東	博多	中央	南	城南	早良	西	合計
助成校区数	25	16	9	24	11	24	21	130

(2) 住民の主体的参加と相互に支え合うまちづくりの推進 (61,546千円)

地域における支えあいの仕組みづくりを進めていくために、ふれあいネットワークや、ふれあいサロン、ふれあいランチ、校区広報紙発行等の地域住民による自主的な福祉活動を支援した。

① ふれあいネットワーク活動の拡充（再掲）（P.7）

② ふれあいサロン活動の拡充（再掲）（P.9）

③ ふれあいランチ事業

調理することが困難な高齢者、障がい者等へ食事を届け、利用者の健康増進を図るとともに、安否確認・各種相談等を行い、地域とのふれあいを深める活動を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

[助成額] 990,405円

[活動状況]

(平成26年3月末現在)

区	助成校区数	校区名	利用者数	ボランティア数	のべ配食数
東	1	美和台	7	14	800
博多	1	那珂	6	6	605
南	2	東花畑、若久	25	34	1,793
早良	1	百道	10	18	537
合計		5校区	48	72	3,735

④ あんしんサービス創造モデル事業（再掲）（P.10）

⑤ 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業（再掲）（P.4）

⑥ シニアアシストふくおか（再掲）（P.2）

⑦ シニア地域サポーターモデル事業（再掲）（P.2）

⑧ 安心情報キット配付事業（市委託事業）

かかりつけの病院や緊急連絡先等の情報を書いたカードを筒に入れて冷蔵庫で保管することができるキットをひとり暮らしの高齢者や障がい者など地域で見守りが必要な人に配付した。

[配付者数] 5,793人

⑨ 見守り対象者情報の整理支援と緊急時連絡カード事業（一部再掲）（P.10）

地域からの要望に応じて名簿の整理やデータ化を行い、見守り体制の充実に向けて支援を行った。また、見守り活動で活用できるツールの一つとして緊急時連絡カードの提供を行った。

⑩ 買い物支援ハンドブックの作成（再掲）（P.10）

⑪ 生活支援サポーターモデル事業（再掲）（P.10）

(3) 地域で進める子育て支援

(23,760千円)

① ファミリー・サポート・センターの拡充（市委託事業）

子育て家庭が地域の中で孤立することなく、安心して子育てができるよう、地域において子育てを「応援して欲しい人」「応援したい人」を組織化し、会員制による相互援助活動を広めた。

[会員登録状況]

依頼会員	提供会員	両方会員	合計
5,644	885	881	7,410

[活動内容及び回数]

	活動内容	回 数
1	保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	5, 609
2	子どもの習い事等の場合の援助	1, 427
3	保護者等の買物等外出の場合の援助	1, 304
4	保育所・幼稚園の迎え	1, 226
5	保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	1, 208
6	(その他) 保育所・幼稚園の登園前の預かり 保育所・幼稚園の送り 保育所・学校等休み時の援助 障がい児のサポート 等	6, 683
	合 計	17, 457

[講習会・交流会等の実施]

- (ア) 依頼会員登録講習 (支部：月～金、本部：第3土曜日)
- (イ) 提供・両方会員養成講習会 (5回、受講者のべ740人)
- (ウ) フォローアップ講座 (2回、受講者のべ45人)
- (エ) 会員交流会 (9回、参加者のべ271人)
- (オ) 活動未体験会員のための「あずかりっこ」 (7回、参加者のべ130人)
- (カ) 会員リーダー連絡会の実施 (1回)

② 子育てサロン・サークルの支援

子育てサロン・サークル活動の内容充実や、子育て相談の場を設定することを目的とした、子育てサロン・サークルへの保育士派遣事業や講師派遣事業を実施した。

(4) 民生委員・児童委員協議会助成事業 (29, 460千円)

地域福祉を共に推進する民生委員・児童委員の活動充実を図るため、民生委員・児童委員協議会へ活動費の助成を行った。

(5) 共同募金、寄付金等を活用した福祉のまちづくりの推進 (13, 623千円)

① 友愛訪問事業

福岡市老人クラブ連合会の友愛訪問事業に対し、活動費の助成を行った。

② 共同募金配分事業 (再掲) (P. 13)

③ 奉仕銀行運営事業

本会に対する寄付金や物品の受け入れを行った。また、寄付者の意向に沿い、寄付金及び福岡市の補助金 (福岡市に寄せられた寄付金) を財源に、法人格を有しない団体・施設に配分し、施設整備及び新規事業の実施を支援した。また、施設等への物品寄贈やイベント招待等を仲介した。

	項 目	件 数	金 額	備 考
受入	寄付金	123件	46, 212, 269	・介護支援ボランティア事業のポイント換金寄付104件を含む ・母子福祉会解散時の残余財産寄付により「母子福祉会芙蓉基金」を設立
	物 品	2件	170, 000	車いす (2台)

配 分 等	寄付金の 配分	14団体	10,523,245	14団体・施設に対し、施設整備や新規事業費として配分
	施設への 仲介等	46件	—	野球試合招待、演劇・定期演奏会招待、ランドセル、ひな人形等

(6) その他の社協事業

(3,205千円)

① 区社協事業（区ボランティアセンター事業等）

区ボランティアセンターと共働し、地域住民のボランティア活動への参画を促す講座や研修会の実施、活動相談やコーディネートの充実を図った。

(参考) 2. (1) ① ボランティアコーディネーション事業 (P.16)

② 市社協事業

(ア) 行旅病人一時扶助事業

やむを得ない理由により一時的に困窮の状態にある行旅中の要援護者が、移動等のために必要とする費用の一部に充てるため、現金と乗車カードを博多区保健福祉センター（博多区保護3課）に預け、必要に応じて要援護者に支給した。

項目	件数	金額(円)	備考
現金	0	0	
乗車カード	31	31,000	オレンジカード31枚

(イ) 全九州電力労働組合福祉基金事業

平成9年に全九州電力労働組合から九州社会福祉協議会連合会への寄付を財源とした基金を創設し、本会が事務局として基金の管理を行っている。

[運用利益の配分] 11社協(8県3政令市)へ118,000円ずつ配分

2 多様なボランティア活動を推進します

ボランティア活動への参加促進やボランティア意識の高揚を図るため、広報・啓発活動や相談・紹介など各種事業を実施した。

(1) ボランティア活動相談・調整事業の強化

(3,736千円)

公的なサービスでは対応できない多様な生活課題を抱える人たちを支援するため、ボランティアをはじめ、関係機関への働きかけを行った。

また、ボランティア活動希望者が実際の活動に結びつくよう支援した。

① ボランティアコーディネーション事業

(ア) 個人ボランティア活動相談・登録

㊤活動相談(合計)	㊦対応状況	相談のみ	マッチング率(㊦÷㊤)
679	557 (登録423、活動先紹介134)	122	82.0%

(イ) ボランティア依頼

㊤依頼件数(合計)	㊦対応件数	のべ対応ボランティア数	マッチング率(㊦÷㊤)
2,220	1,958	5,132	88.2%

〔依頼内容〕

内 容	件 数	内 容	件 数
外出付き添い	6 6 3	託児	5 1
話し相手	3 2 7	家事援助	4 9
日常生活援助	3 1 9	朗読	2 4
施設・団体の行事援助	2 6 3	散髪	1 8
技術・学習指導	2 2 4	身体介助	1 1
点訳	1 2 8	訓練	1
遊び相手	5 8	その他	8 4
合 計		2, 2 2 0	

(ウ) 登録ボランティア内訳

	25年度新規	現登録数
個人ボランティア数	4 2 3人	1, 4 5 9人
ボランティアグループ数	4団体	1 5 0団体
人数	7 2人	4, 3 7 7人

② 施設・病院等ボランティアコーディネーター研修会

市内の福祉施設・病院においてボランティアの受入体制の整備・充実を図るため、施設・病院等のボランティア担当者を対象とした研修会を実施した。

実施日	受講者数	内 容
平成26年 2月13日(木)	4 4	初級編「ボランティアコーディネーターのいろは」 講師：福岡市ボランティアセンター職員
2月20日(木)	3 4	実践編「改めて学ぼう！面接のスキルと一歩進んだ伝達力」 講師：伊東 良輔 氏(公益社団法人福岡県社会福祉士会理事)

③ ボランティア活動情報の収集・提供

登録ボランティアグループや福祉施設等のボランティアニーズの実態を調査し、下記資料を作成してボランティア相談等で活用した。

(ア) 登録ボランティアグループの状況調査

「センター登録ボランティアグループ一覧」、「芸能ボランティア情報」を作成し、ホームページに掲載したほか、グループに入会して活動を希望する個人や、施設、団体からの行事の際の依頼に対応した。

(イ) 施設等ボランティアニーズ調査

「施設ボランティア募集情報・ボランティア体験受入情報」、「バザー用品等募集情報」を作成し、ホームページに掲載したほか、活動を希望する個人、団体への情報提供、コーディネートを行った。

(ウ) ボランティア情報紙「風」発行

個人登録者などへ、様々なボランティア活動の紹介や情報の提供を行った。

〔発行回数〕 6回 (偶数月発行)

〔発行部数〕 2, 6 8 3～3, 0 5 9部/回

(エ) 芸能ボランティア情報冊子発行

個人やグループで活動する芸能ボランティアの情報をまとめた冊子を作成し、ホームページに掲載したほか、芸能ボランティア活動を依頼する施設等に対して、情報提供を行った。

(2) ボランティアの育成、活動支援

(2, 113千円)

多様な生活課題に応えるため、一定の知識や技術を必要とするボランティアを各種講座を通じて育成した。また、ボランティアグループの活動を支援した。

① 各種ボランティア養成講座の充実

(ア) 技術ボランティア養成講座

主に、視覚障がい者の方を対象とした技術を要する活動に参加するボランティアを養成するための講座を開催した。

i) 音訳(朗読)ボランティア養成講座

○初心者向け

〔実施日〕平成25年5月30日(木)～9月26日(木) (全13回)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔講師〕佐々木 謙介 氏 (元アナウンサー)

〔受講者数〕25人 ※うち20人が活動を開始した。

○フォローアップ講座

〔実施日〕平成26年2月8日(土)、15日(土)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔講師〕林 欣子 氏 (元アナウンサー)

〔受講者数〕19人

ii) 視覚障がい者ガイドボランティア養成講座

〔実施日〕平成25年9月7日(土)～21日(土) (全3回)

〔会場〕市民福祉プラザ 他

〔講師〕木村 陽子 氏 (福岡市立心身障がい福祉センター)

〔受講者数〕15人 ※うち9人がガイドボランティアサークル「風車」に加入した。

iii) 点訳ボランティア養成講座

〔実施日〕平成25年5月7日(火)～8月6日(火) (全11回)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔講師〕ボランティア連絡協議会視覚部門点訳グループ

〔受講者数〕27人 ※うち11人が点訳ボランティアグループに加入した。

(イ) ボランティアステップアップ研修会

主に芸能分野で活動しているボランティアグループのメンバーを対象に、アイスブレイクの手法とコミュニケーションの基本を学ぶ研修を実施した。

〔実施日〕平成26年3月29日(土)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔テーマ〕「ボランティアに活かせるレクリエーションを学ぼう」

〔講師〕原田 弘美 氏 (NPO法人福岡市レクリエーション協会)

〔受講者数〕17人

(ウ) シニアボランティア講座

ボランティア活動に役立つコミュニケーション術や認知症について学ぶ機会を作り、シニア世代のボランティア活動参加を推進した。

実施日	会場	テーマ	受講者数
平成26年 1月17日(金)	市民福祉 プラザ	「聴き上手になりたい」～こころに寄り添う～ 講師：富岡 郁雄 氏 (NPO法人日本ソーシャルコーチ協会代表理事)	90
1月31日(金)		「ぼけてもふつうに暮らしたい」 ～認知症介護の現場から～ 講師：村瀬 孝生 氏 (宅老所よりあい代表)	92

(エ) 課題別ボランティア養成講座

公的サービスでは対応することが難しい、多様な生活課題を抱える方々の支援を行うボランティアの育成を行った。

i) 高齢者外出支援ボランティア養成講座

加齢により外出が困難となった高齢者の散歩や買い物、展覧会など生きがいにつながる外出を支援するボランティアを養成した。

[実施日] 平成25年6月8日(土)～29日(土) (全4回)

[会場] 市民福祉プラザ

[講師] 松野 浩二 氏 (理学療法士)、吉良 安之 氏 (九州大学基幹教育院教授)

[受講者数] 18人 ※うち15人が高齢者外出支援ボランティアグループ「ひまわり」に加入した。

ii) バリアフリー映画支援ボランティア養成講座

目や耳の不自由な人に多くの映画やDVDを楽しんでいただくために、映画などのナレーションや字幕を作成するボランティアを支援した。

[実施日] 平成25年10月26日(土)～12月1日(日) (全5回)

[会場] 市民福祉プラザ

[受講者数] 15人

※うち11人がボランティアグループ「バリアフリーシアター エイミング」に加入した。

(オ) 企業ボランティア養成講座

平成25年10月8日(火) 台風のため中止

(カ) ボランティア初心者研修会

介護支援ボランティア登録者のうち、主に活動未経験者を対象にボランティアについての基礎講座及び施設見学を開催し、活動のきっかけづくりを行った。

実施日	会場	のべ受講者数
平成25年 6月5日(水)	特別養護老人ホーム「花の季苑」	25
9月2日(月)～18日(水) (全3回)	市民福祉プラザ 特別養護老人ホーム「はなみずき園」	42
11月1日(金)・8日(金)	市民福祉プラザ 介護保険複合施設「光薫寺ビハーラ」	36

(キ) 「勤マルの日」事業

誰でも気軽に参加できるボランティア活動拠点を設定し、企業などが独自に企画した自主活動とあわせて行う福岡独自のイベント「勤マルの日」(＝一斉ボランティア実行Day)事業を、NPOふくおか及び福岡県経営者協会と共催して実施した。

(※「勤マル」…「勤労者マルチライフ支援事業」の略で、勤労者の社会参加・ボランティア活動への参加を促進するための事業)

[実施日] 平成25年10月27日(日)、11月9日(土)、10日(日)、16日(土)

[会場] 福岡県内18か所

脇田海岸、筑後川、深浜海岸、今津海岸、志賀島、九州がんセンター、葦の家、アイランドシティ、楯の松原、生の松原、大橋駅東口、大博通り、こども病院、九州大学病院、警固校区、舞鶴公園、福博であい橋、福岡市博物館

[参加者数] 1,240人

② 登録ボランティアグループへの支援

(ア) 活動拠点・資材・情報の提供

内 容	件 数	備 考
ボランティアルーム等活動室 印刷室 等	3,312	のべ 15,673人

(イ) 福岡市ボランティア連絡協議会への支援

[助成金] 100,000円

(ウ) 在宅視覚障がい者サービス事業等

点訳、音訳ボランティアグループが活動で使用する機材の購入、メンテナンスを行った。

(3) 災害ボランティア活動の推進

(801千円)

日頃から災害に対する備えの大切さを啓発するための研修会を開催し、講演と災害ボランティアセンター運営のシミュレーションを行った。また、災害NPO・ボランティアと協働し防災啓発イベントを行った。

① 災害ボランティア講座の開催

[実施日] 平成26年3月15日(土)

[会場] 市民福祉プラザ

[内容] 講演「災害ボランティアセンターの役割」、演習「ニーズ聞き取り・マッチング」

[講師] 栗田 暢之 氏 (NPO法人レスキューストックヤード代表理事)

[受講者数] 60人

② 災害NPO・ボランティアとの協働及び防災イベント(防災どんたく)の実施、福岡市市民総合防災訓練への参加

(ア) 防災どんたく

[実施日] 平成26年2月28日(金)～3月23日(日)(全7回)

[会場] イオンモール香椎浜 他6か所

[内容] 地域防災活動の事例発表や講演会、街頭での心肺蘇生・AED体験など

(イ) 福岡市市民総合防災訓練

〔実施日〕平成25年5月14日(火)

〔会場〕九州産業大学

〔内容〕警固断層南東部、福岡市中心域での震度6強の地震を想定した総合防災訓練

(4) 介護支援ボランティア事業(再掲)(P. 2)

(9, 256千円)

3 その人らしい暮らしを支えます

(1) 相談機能の充実・強化

(5, 132千円)

① 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業(再掲)(P. 4)

② 心配ごと相談所事業

民生委員・児童委員、福岡県弁護士会及び行政書士の協力を得て、市民の日常生活上のさまざまな相談に応じ、適切な助言、援助を行うことでその人らしい暮らしを支える「心配ごと相談所」を実施した。また、あわせて福岡市委託事業として福祉相談事業(高齢者に関する法律相談)を実施した。

(ア) 開設状況

〔実施日時・開設日数〕

○心配ごと相談 94日

一般相談:月曜日 10時~16時

専門相談:月曜日、金曜日 13時~16時

○高齢者に関する法律相談 50日

水曜日 13時~16時

〔会場〕市民福祉プラザ3階 相談室

〔相談員〕民生委員・児童委員、弁護士、行政書士

〔相談状況〕 ※うち()は、高齢者に関する法律相談

種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	一日平均
	生計・年金	職業・生業	住宅	家族	結婚・離婚	医療・保健	人権・法律	財産	事故	福祉	苦情	その他		
件数	25 (5)	7 (0)	36 (13)	57 (22)	60 (14)	9 (2)	30 (16)	140 (59)	10 (2)	30 (9)	16 (7)	53 (18)	473 (167)	3.3

〔相談結果〕

	相談所解決	継続	民生委員紹介	他機関紹介	その他	合計
件数	388 (137)	3 (1)	0 (0)	77 (26)	5 (3)	473 (167)

③ 「相談窓口のてびき」の作成

関係機関で提供される福祉制度や福祉サービスなどを紹介するため、「相談窓口のてびき」改訂版を3,300部発行し、民生委員・児童委員や各種相談窓口へ配付した。

また、最新の情報をホームページに掲載し、市民への相談窓口の情報提供を図った。

(2) 個別支援の強化・拡充

(107,836千円)

① 日常生活自立支援事業（再掲）（P. 3）

② 高齢者賃貸住宅入居支援事業

民間賃貸住宅や都市再生機構（UR）に居住する高齢者が安心して在宅生活を送ることができるよう、定期的な見守りサービスや住宅退去時のサービス等に関する事業を実施した。

なお、新規受付は、平成22年度末をもって終了し、新規の相談に対しては、社協独自事業である「ずーっとあんしん安らか事業」へ移行した。

〔現契約件数〕 61件

〔葬儀・家財処分実施数〕 2件

③ 高齢者住宅相談支援事業

民間賃貸住宅を探している高齢者に対し、物件情報や生活支援サービスに関する情報を提供した。また、希望者へは物件内覧時の同行サービスを有料で実施した。

〔相談件数〕 183件

〔物件紹介件数〕 195件

〔成約件数〕 10件

④ ずーっとあんしん安らか事業（再掲）（P. 3）

⑤ 成年後見支援事業（再掲）（P. 4）

⑥ 低所得者への生活支援事業

低所得者、高齢者、障がい者等に対して、各種貸付事業を実施した。

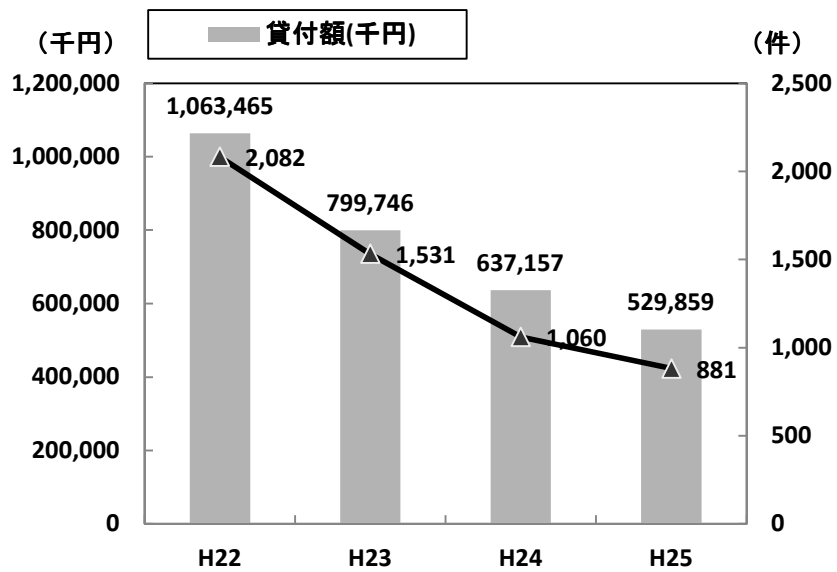
(ア) 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等を対象に、それぞれの世帯の状況や必要に合わせた資金の貸付けを行い、低所得者等の経済的自立と生活意欲の助長や在宅福祉、社会参加の促進を図った。

〔貸付件数〕

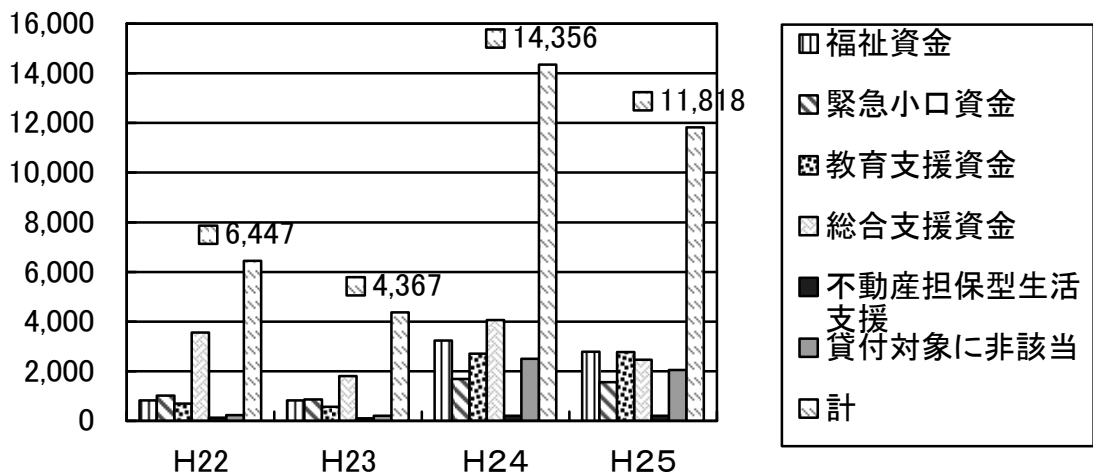
資金種類	貸付		償還（元金）
	件数	金額（円）	金額（円）
福祉資金	231	48,313,000	45,730,787
教育支援資金	279	354,249,000	75,005,827
緊急小口資金	178	17,015,000	12,320,133
総合支援資金	188	70,592,127	61,495,812
離職者支援資金	0	0	16,730,118
不動産担保型生活資金	5	39,690,000	67,934,000
要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	9,792,000
合計	881	529,859,127	289,008,677

※ 生活福祉資金制度は、国（2/3）・県（1/3）が原資の負担、福岡県社協が事業の主体となっており、福岡市社協では貸付の相談及び受付を行っている。



[相談件数]

資金種別	年度別相談件数			
	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
福祉資金	8 2 1	8 2 9	3, 2 3 0	2, 7 8 2
緊急小口資金	1, 0 1 4	8 6 7	1, 6 8 7	1, 5 5 8
教育支援資金	6 9 4	5 6 1	2, 7 0 2	2, 7 6 6
総合支援資金	3, 5 5 6	1, 8 0 4	4, 0 2 6	2, 4 6 2
不動産担保型生活資金	1 3 0	1 0 0	2 0 4	2 1 0
貸付対象に非該当	2 3 2	2 0 6	2, 5 0 7	2, 0 4 0
合 計	6, 4 4 7	4, 3 6 7	1 4, 3 5 6	1 1, 8 1 8



(イ) 生活保護世帯等一時貸付事業

生活保護世帯や低所得世帯の緊急時の出費等に対する貸付事業を実施した。

種別	貸付		償還(元金)
	件数	金額(円)	金額(円)
生活保護世帯分	2,386	30,197,980	29,900,480
支援給付分	0	0	0
低所得世帯分	3	80,000	96,000
離職者緊急支援つなぎ分	0	0	64,000
合計	2,389	30,277,980	30,060,480

(ウ) 生活困窮者自立支援センターとの連携・協力

平成25年12月からモデル事業として設置された自立支援センター(民間事業者委託)と連携し、相談者への支援を行った。

⑦ ホームレス自立支援事業

(ア) 「福岡絆プロジェクト」への参画

ホームレスや若年生活保護世帯の人たちの支援をすすめる「福岡絆プロジェクト」に参画した。

(イ) 生活用品の配布

歳末たすけあい募金の配分を受け、冬期の寒さをしのぐための冬季に必要な暖房用品(カイロ)を支援団体と協力し、ホームレスの人たちに配布した。

〔配布数〕970袋

⑧ 家族介護者のつどい事業(市委託事業)

家庭で寝たきり高齢者や認知症高齢者及び障がい者を介護している家族介護者を対象に、日頃の悩みや体験についての意見交換や介護者同士の交流、心身のリフレッシュを目的とした集いを実施した。

(ア) バスハイク

ブロック	実施日	会場	参加者数
東区、博多区	平成25年11月19日(火)	天拝の郷 (筑紫野市)	12
中央区、南区、城南区	11月21日(木)		7
早良区、西区	11月26日(火)		13

(イ) 心と体の健康講座

〔実施日〕平成26年3月3日(月)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔講師〕笑いヨガティーチャー 佐藤 昌久 氏(健康運動指導士・心理カウンセラー)

〔受講者数〕24人

⑨ 福祉用具リサイクル斡旋事業

不用となった福祉用具を「譲りたい人」と福祉用具が「必要な人」をコーディネートし、福祉用具のリサイクルを進めるとともに、福祉用具の普及と在宅介護の軽減を図った。また、希望する用具の登録がなく、早急に用具を必要としている譲受希望者には、福祉用具リサイクル業者などの情報提供に努めた。

[登録件数]

	車いす・電動車いす	電動ベッド	歩行支援用具	その他	合計
提供希望者	16	23	5	14	58
譲受希望者	29	19	3	9	60

[斡旋した件数]

成立	取り下げ	調整中
29組 (58件)	89件	4件

⑩ リフトカー貸出事業

歩行が困難な高齢者、障がい者等の社会参加の機会拡大等のために、リフトカー2台の貸出を行なった。

[貸出件数] 107件 (のべ日数236日)

⑪ その他貸付事業

(ア) 臨時特例つなぎ資金貸付事業

解雇や派遣労働者の雇止め等により住居を喪失し、その後の生計維持が困難な離職者が公的給付制度等(失業等給付、住宅手当等)を申請し、その交付を受けるまでの当面の生活費の貸付を行った。

貸付		償還(元金)
18件	1,750,000円	579,000円

(イ) 障がい者高齢者住宅整備資金貸付事業の実施

平成22年度末をもって貸付事業は終了し、償還のみ行った。

貸付		償還(元金)
0件	0円	1,253,840円

(3) 団体・施設等の支援

(105,720千円)

① 福祉バス事業(市委託事業)

老人クラブ、障がい児・者団体等の福祉活動を支援するための福祉バスの申し込み受付、バス会社への配車予約等を実施し、のべ35,291人の利用実績があった。

老人クラブ	障がい児・者団体	児童・母子福祉団体	その他	合計
638台	223台	3台	127台	991台

② 歳末たすけあい運動募金配分事業

歳末たすけあい運動募金の配分を受け、福祉作業所の利用者等に対し、見舞金の贈呈を行った。また、校区社協等の団体が歳末時期に実施する事業の経費を助成した。

	対象者・団体	件数
見舞金贈呈事業	福祉作業所等利用者	379
	交通遺児	47
	里親委託児童	67
助成事業	校区社協	159
	子育て支援団体	189
	障がい児者支援団体	98
	社会的課題支援団体	7

③ 社会福祉施設等支援事業

(ア) 社会福祉事業従事者研修

民間社会福祉施設従事者や社会福祉関係団体職員を対象とした研修を実施し、福祉に関する知識や技術、組織の中での役割などについての理解を深めた。

研修対象	研修事業名	受講者数
民間社会福祉施設従事者	新任職員研修Ⅰ【社会人1年目】(2日間)	42
	〃 Ⅱ【社会人2～3年目】(2日間)	58
	中堅職員研修(2日間)	56
	指導的職員研修(2日間)	55
	救急法研修(3回実施)	183
	福祉レクリエーション研修(2回実施)	123
社会福祉関係団体職員	人権研修	65
	接遇研修	52
合計		634

(イ) 民間社会福祉事業従事職員福利厚生共済事業

民間社会福祉施設等の職員の福利厚生の充実を目的に、加入職員のニーズにあわせた事業の企画・実施に努めた。

(事業の詳細については、別表1(P.37～38)のとおり。)

加入契約法人数	施設数	加入職員数
123法人	162施設	4,118人

(ウ) 民間保育施設整備資金貸付事業

民間が経営する保育施設の建物の修理、増改築及び備品等の整備に必要な資金の貸付事業を実施した。

貸付		償還(元金)
0件	0円	5,953,074円

(エ) 施設整備利子補助事業

社会福祉事業の振興を図るため、福祉医療機構から借り入れた資金の利子支払いに対して、補助金を交付した。

〔対象〕 77法人・80施設・82件

〔補助金額〕 43,053,735円

(オ) 更生保護施設助成事業

更生保護の推進を目的とした活動に対して、補助金を交付した。

〔対象〕 3団体

〔補助金額〕 1,830,000円

(カ) 児童福祉施設球技大会（福岡市との共催）

〔実施日〕 平成25年6月23日（日）

〔会場〕 山王公園野球場、博多市民センター

〔競技種目・チーム数〕 軟式野球の部：3チーム、バレーボールの部：3チーム

4 福祉の心を育みます

(1) 福祉学習の推進

(3,066千円)

学校、地域、市民や企業に対し、福祉についての学習の機会や教材等を提供し、理解と関心を高め、福祉活動への参加の動機付けを図った。

① 福祉学習教材の提供

(ア) 児童・生徒への福祉読本「わたしもあなたもボランティア」

〔配布先〕 市内の中学校1年生及びその担当教師

〔配布数〕 16,000部

(イ) 福祉体験学習マニュアル「福岡市の福祉教育お役立ちBook」

〔配布先〕 市内の小中学校

〔作成数〕 270部

(ウ) 福祉教育読本「ともに生きる」

〔配布先〕 市内の小学校5年生

〔配付数〕 4,763冊

② 出前福祉講座

学校、企業などに出向き、障がい者疑似体験、高齢者疑似体験などを行い、福祉やボランティア活動の理解を深めた。

〔件数〕 48件

〔対象〕 公民館、学校、企業、地域団体等

③ ボランティア体験事業

(ア) 1日体験「切手ちよきちよきボランティア」

〔実施日〕 平成25年10月5日（土）

〔会場〕 市民福祉プラザ

〔内容〕 切手整理ボランティア活動の説明と体験、福祉かるた遊び

〔受講者数〕 8人

(イ) 「50代からのあなたが輝くボランティア講座」

〔実施日〕平成25年11月1日(金)～11月22日(金) (全6回)

〔会場〕市民福祉プラザ、ニチイケアセンター向新町、油山自然観察センター、特別養護老人ホームはなみずき園

〔内容〕ボランティア基礎学習、ボランティアグループ活動見学・体験、ふりかえり

〔受講者数〕27人 ※うち11人で新たに芸能ボランティアグループを結成した。

④ 福祉学習教材の貸し出し

貸出品	件数	のべ貸出数
車いす(在宅利用含む)	202	707
アイマスク	23	562
高齢者疑似体験セット	53	345
点字器	9	410
共用品・白杖	49	428

(2) 福祉啓発・情報提供機能の充実

(3, 413千円)

① ホームページや広報紙を通じた情報発信

(ア) 広報紙「ふくしのまち福岡」の発行

福祉やボランティアに関する情報及び本会の活動や事業を広く市民に紹介し、福祉に対する意識を高めるため、広報紙を発行・配布した。

〔発行回数〕2回(第108号・第109号)

〔発行部数〕17,000部/回

(イ) ホームページの運営

市民に本会事業を周知するため、ホームページにより最新情報の発信を行った。

〔アクセス数〕95,284件/年

② 福祉のまちづくり推進大会

市民や福祉関係者を対象に、福祉功労者の表彰や福祉活動の紹介、記念講演の実施を通じて、市民一人ひとりの福祉についての関心を高めるきっかけづくりを行った。

〔実施日〕平成25年11月8日(金)

〔会場〕福岡市民会館

〔記念講演〕「住民流」が地域福祉を救う～助け合いの地域づくりのためにできること～

講師：木原 孝久 氏(住民流福祉総合研究所所長)

〔参加者数〕1,800人

③ 福祉啓発イベント

(ア) ハートフルフェスタ福岡2013への参加

市民の人権問題についての理解を深めるために、ボランティアの協力を得て福祉体験コーナーを設け、車イス体験などを行った。

〔実施日〕平成25年10月6日(日)

〔会場〕福岡市役所ふれあい広場

〔内容〕車イス体験、アイマスク体験、出前ボラセン

〔参加者数〕95人

(イ) 障がい者週間（12月3日～9日）記念の集いへの参加

福岡市が主催する「障がい者週間記念の集い」事業に参加し、障がい者関係団体とともに障がい者の社会参加と福祉向上のための啓発活動を行った。

〔実施日〕平成25年12月8日(日)

〔会場〕福岡市役所ふれあい広場

〔内容〕川野将太選手(ロンドンパラリンピック車椅子テニス4位入賞)トークショー、障がいのある人のファッションショー、各福祉団体等ステージ・バザー、車イス体験、アイマスク体験

〔参加者数〕5,000人

④ 出前ボランティアセンター事業

地域のイベント等に出向き、来場者にボランティア活動の相談や広報を行った。

行事名	実施日	会場	来場者数
ふれあい広場	平成25年9月8日(日)	イオンモール香椎浜	600
城南区健康フェア	10月1日(火)	城南区保健福祉センター	100
南区健康フェア	10月11日(金)	南区保健福祉センター	137
秋祭り in 博多	11月16日(土)	南福岡特別支援学校	103
西南学院大学学生祭	11月17日(日)	西南学院大学	31
バリアフリーイベント	12月15日(日)	市民福祉プラザ	200
アラカンフェスタ	平成26年3月9日(日)	福岡国際会議場	320

⑤ 対面朗読サービス

視覚障がい者などが情報を得る方法の一つとして、福祉図書・情報室にて登録ボランティアによる「対面朗読サービス」を提供した。

〔実績〕497件

⑥ 防災イベント（関係機関と協働）（再掲）（P.20）

5 市民福祉プラザ事業を推進します

市民福祉プラザの指定管理者として、市民が安心して利用できるよう管理運営を行うとともに、入居団体等と連携して研修及び啓発事業、相談事業等を実施し、市民の福祉への理解や福祉活動への参加を支援した。

(1) 福祉活動拠点機能の充実

(196,195千円)

① 貸室運営

市民福祉プラザの各種施設を福祉関係団体や障がい者、高齢者等の市民が十分活用できるように管理運営を行った。

〔施設全体の利用延人員〕301,473人（前年度比93.4%）

（各施設の利用状況は別表2（P.39）のとおり。）

② 障がい者作品展、利用団体写真展等の実施

(ア) 障がい者作品展

障がい者週間にあわせて福祉団体・施設から寄せられた絵画や写真、書などを展示し、障がい者福祉の啓発に努めた。

〔実施日〕平成25年12月3日(火)～27日(金)

〔会場〕市民福祉プラザ エントランスホール、レストラン内 他

〔参加数〕5施設・団体 49作品

(イ) ふくふくプラザ写真展

写真を趣味としてプラザを利用している高齢者団体や障がい者団体等を対象に、生きがい活動の支援と利用団体相互の交流を図ることを目的に、写真展を開催した。

〔実施日〕<第1回>平成26年3月4日(火)～17日(月)

<第2回>平成26年3月19日(水)～31日(月)

※第3回は平成26年4月2日(水)～14日(月)、第4回は4月16日(水)～29日(火)、第5回は5月21日(水)～6月3日(火)に実施予定。

〔会場〕市民福祉プラザ エントランスホール

〔参加数〕9団体 120作品

③ 福祉映画鑑賞会、とうにん・ふくふくコンサートの開催

(ア) 福祉映画鑑賞会

市民の福祉意識やボランティア意識の高揚を図ることを目的に、障がい者も一緒に鑑賞できる副音声や字幕入りの福祉映画鑑賞会を開催した。

実施日	内容	会場	来場者数
<第1回> 平成25年12月7日(土)	「鍵泥棒のメソッド」 ※福岡市主催「障がい者週間記念の集い」と連携	市民福祉 プラザ	149
<第2回> 平成26年3月25日(火)	「ペコロスの母に会いに行く」	ふくふく ホール	192

(イ) とうにん・ふくふくコンサート 〈新規〉

ふくふくホールの音響の良さを十分に活用し、「どなたでも良質な音楽を楽しめる」音楽会を当仁校区自治協議会、当仁公民館、当仁小学校等と共催して開催した。

実施日	内容	会場	来場者数
<第1回> 平成25年8月21日(水)	活水女子大学音楽学部学生・卒業生有志によるピアノ・声楽・器楽演奏	市民福祉 プラザ ふくふく ホール	120
<第2回> 11月11日(月)	福岡大学附属大濠中学・高等学校生徒有志によるピアノ・声楽・器楽演奏		80
<第3回> 11月23日(土)	大阪音楽大学准教授「木村彩子」ピアノリサイタル		200
<第4回> 平成26年2月10日(月)	エコー西高宮合唱団ほかによる「合唱の夕べ」		100
<第5回> 3月9日(日)	打楽器アンサンブル「ワンショット」		80

④ プラザ利用団体、地域団体等との懇談会

入居団体やプラザ利用団体と、施設運営に関する意見交換をそれぞれ実施し、改善等を行った。また、地域団体等と懇談会等を通して地域とプラザ共通の問題等について協議するとともに、地域情報とプラザ情報を共有化し、地域との交流を図った。

(ア) プラザ入居団体連絡会 (年6回)

(イ) 視覚障がい者団体やボランティア団体等との懇談会 (年1回)

(ウ) 当仁校区自治協議会連絡会への参加 (年1回)

(エ) 団体連絡室利用団体との懇談会 (年1回)

(2) 市民向けの福祉講座の開催

(657千円)

① 市民福祉講演会

平成24年度に引き続き「成年後見制度」などの超高齢社会に向けての相互支援をテーマとした講演会を市民向けに実施し、福祉の啓発と福祉事業への理解を図った。

実施日	内容等
<第1回> 平成25年 6月6日(木)	「落語でわかる成年後見制度」 会場：市民福祉プラザ ふくふくホール 講師：桂 ひな太郎 氏(落語家) 岩城 和代 氏(岩城弁護士事務所弁護士) 参加者数：236人
<第2回> 9月20日(金)	「劇を見ながら地域を考える」(孤立死をテーマ) 【第1部】 劇「レインボー村あれから百年物語」 (八幡大谷まちづくり協議会れいんぼー一座) 【第2部】 実践報告「城浜校区の高齢者見守り活動」 「東若久校区ふれあいネットワークの活動」 会場：市民福祉プラザ ふくふくホール 参加者数：163人
<第3回> 10月17日(木)	『「助けて」と言える社会～ホームレス支援から見た無縁日本～』 会場：市民福祉プラザ ふくふくホール 講師：奥田 知志 氏(北九州市ホームレス支援機構理事長) 参加者数：143人

② 施設見学受入

地域の団体や海外からの市民福祉プラザ施設見学を受け入れ、ユニバーサルデザインなどへの理解と施設の利用を促した。

[見学回数] 58回

[見学者数] 1,706人

(3) 情報提供と相談事業の充実

(16,903千円)

① 福祉図書・情報室の運営

	図 書	ビデオ・DVD
蔵書数	30,332冊	1,269本
利用状況(貸出数)	12,510冊	686本

[利用者数] 30,102人(新規登録者数441人)

[レファレンス数(調べもの相談)] 1,260件

- ② 「ふくふくプラザだより」の発行
 [発行回数] 12回(毎月発行)
 [発行部数] 3,000部/回 (音訳版 21本/回・点訳版 11部/回)
- ③ プラザ相談窓口 相談員研修会の開催
 [実施日] 平成25年9月11日(水)
 [会場] 市民福祉プラザ 601研修室
 [内容] 接遇研修「コミュニケーションの基本」
 [講師] 河津 佳江 氏 (㈱インソース)
 [受講者数] 65人

6 市・区社協の基盤を強化します

(1) 事業推進体制の強化

限られた資源・人材を効率的に投下するため、組織・職員体制を重点配置するとともに、新しい事業の検討や既存事業の見直しを行った。また、サービスの質の向上を計るためにマニュアルを整備し、円滑に業務を遂行するためにITシステムを活用した。

(2) 職員の資質の向上と人材育成

(1,549千円)

- ① 職員研修の充実(再掲)(P.12)
- ② 自己研鑽の支援(再掲)(P.12)
- ③ 相談援助技術の向上(一部再掲)(P.12)
 職員の地域福祉活動推進業務等における相談援助技術向上のため専門研修を行った。
- ④ 職員実践事例発表会の実施
 職員が日頃の業務等で得た成果を論文にまとめ、審査・表彰や発表会を行うことにより、職員の資質や知識、業務への意欲の向上を図った。
 [実施日] 平成25年12月9日(月)
 [発表論文数] 5

(3) 財源の確保

福岡市ボランティア活動振興基金の管理運営を行うとともに、ホームページのバナー広告など自主財源の確保に努めた。

① ファンドレイジング(寄付付き商品の開発)〈新規〉

社会貢献を希望する企業等とともに、寄付付き商品の開発の取り組みを行った。

企業名	内容	実績
株式会社ラック 覚書締結日:H25.6.18	「ずーっとあんしん安らか事業応援プロジェクト」 西日本典礼での葬儀1件実施につき200円を寄付。	582件 116,400円
株式会社美住 覚書締結日:H25.8.9	「ずーっとあんしん安らか事業応援プロジェクト」 福祉関係者からの相談による賃貸物件仲介1件につき500円を寄付。	2件 1,000円

ゼブラ株式会社 覚書締結日：H25.12.16	「福岡を良くする『寄付つき文房具』作成販売」 大学（西南学院大学・九州産業大学）×ゼブラ株式会社×福岡市社協×福岡県共募のコラボレーション企画。学生がデザインした学校オリジナルデザインによる「寄付つきペン」を学校の売店で販売し、1本につき5円を寄付。	1,320本 6,600円
株式会社ライフ エッジ 覚書締結日：H26.3.18	「『地域課題のお片付け』プロジェクト」 福祉関係者からの相談による家財片付け、遺品整理、引越1件につき1,000円が寄付。	-
株式会社ベルコ 覚書締結日：H26.3.25	「『ずっと幸福カップル』応援プロジェクト」 福岡市域内で行う結婚式1件につき200円が寄付。 「『いつも皆様のおそばに』安心・安らかプロジェクト」 福岡市域内で行う葬儀1件につき200円が寄付。	-

② ボランティア活動振興基金の造成

ボランティア活動振興のために設置した基金に寄付等を積み立て、ボランティア活動を推進するための財源確保に努めた。

内 訳	件数 (件)	金額 (円)
奉仕銀行ボランティア特定寄付金	0件	0
福岡市ボランティア活動振興基金補助金	—	300,000
合 計		300,000

[平成25年度末基金額] 651,761,505円

③ その他の財源の確保

内 訳	件 数	金額 (円)
会費（正会費・賛助会費）	94	661,000
ホームページバナー広告	6	210,000
車いす等貸出料	35	89,900
外部講師謝礼	17	274,054
実習生受入謝礼	2	48,000
使用済み切手売却益	—	199,100
合 計	154	1,482,054

(4) 収益事業の実施（収益事業特別会計）

プラザのレストラン運営及び自動販売機の設置により、プラザ利用者の利便性を図るとともに、収益金を本会事業に活用した。

(5) 第4期地域福祉活動計画の進行管理

ふれあいネットワークやふれあいサロンの組織化等の数値目標や事業の進捗状況について、定期的に確認を行った。また、計画の見直しを含め市・区社協の事業の方向性等を検討するため「共助を柱に据えた地域福祉活動の推進策あり方検討委員会」を設置し、協議を開始した。

(6) 社会福祉法人新会計基準への移行準備

新会計基準に則した経理規程の改定を行い、新会計基準による平成26年度予算編成を行った。

また、新会計基準移行に伴い、経理処理の事務簡素化や市・区社協での会計システムの共有化を目的に、会計ソフトの見直しを行った。

(7) 社協起動プランの実行（再掲）（P. 12）

7 その他の事業

(1) 補助事業（ふれあい入浴事業等） (5, 280千円)

高齢者の健康増進や交流を目的とする「ふれあい入浴事業」の活動を支援するため、市内の公衆浴場に対し福岡市の補助金を財源として事業費の助成を行った。

〔助成額〕 5, 280, 000円

〔助成箇所数〕 15か所

(2) 福岡市社会福祉協議会顕彰

社会福祉増進のため意欲的に活動を続け、その功績が顕著な個人、団体に対し「福岡市福祉のまちづくり推進大会」にて表彰を行った。

〔福岡市社会福祉協議会会長 表彰〕 237人・36団体

〔 〃 感謝状〕 111人・26団体

(3) 戦災引揚死没者追悼式 (857千円)

昭和20年6月19日の大空襲による戦災死没者及び海外からの引揚げの途中に死没された方々の冥福を祈るとともに、恒久平和の誓いを新たにするため、地域団体とともに、追悼式を実施した。

〔実施日〕 平成25年6月19日(水)

〔会場〕 福岡市戦災記念碑（博多区冷泉公園内）

〔参加者数〕 285人（うち遺族43人）

(4) 老人の日関連事業 (1, 978千円)

高齢者に対する敬愛の念を示すとともに、「老人の日」を記念して、百歳を迎える高齢者に祝状と記念品を、米寿を迎える高齢者に祝状を福岡市とともに贈呈した。

百 歳	米 寿	合 計
255	4, 827	5, 082

(5) 福祉サービス苦情解決

福祉サービス利用者の苦情や意見を幅広く汲み取り、サービス内容をより充実するため苦情解決に取り組んだ。

(6) 視察の受入

本会の先駆的な取り組みについて、他団体からの視察の受入を行った。

実施日	団体名	人数	視察内容
平成25年 7月3日(水)	福山市社会福祉協議会 (広島県)	6	成年後見事業、ずーっとあんしん安らか事業
10月17日(木)	宮崎市社会福祉協議会 (宮崎県)	2	成年後見事業、見守り支援体制、財源確保の取り組み
10月24日(木)	久留米市ふれあい福祉センター運営委員	20	ずーっとあんしん安らか事業
11月5日(火)	益田市社会福祉協議会 (島根県)	7	成年後見事業
11月19日(火)	大牟田市社会福祉協議会	2	ずーっとあんしん安らか事業
12月5日(木)	岡垣町社会福祉協議会	2	ずーっとあんしん安らか事業
12月18日(水)	岡垣町民でつくる福祉のまちづくりワーキングチーム	15	ずーっとあんしん安らか事業
平成26年 1月8日(水)	(株)地域計画建築研究所 (兵庫県居住支援協議会調査委託会社)	3	ずーっとあんしん安らか事業
1月15日(水)	那珂川町社会福祉協議会	9	ずーっとあんしん安らか事業
1月20日(月)	公益社団法人 九州経済調査協会	2	ずーっとあんしん安らか事業
2月12日(水)	益城町社会福祉協議会 (熊本県)	3	ずーっとあんしん安らか事業

(7) 社会福祉士相談援助実習等の受入

福祉分野で活躍する人材を育成するために、社会福祉士資格取得を目指す実習生の受入を行った。

[期間] 平成25年9月10日(火)～30日(月) 16日間

[人数等] 2人(西九州大学、筑紫女学園大学)

8 会務の運営

(1) 理事会の開催

実施日	出席者数	審議事項等
<第174回> 平成25年 5月2日(木)	17	・ 評議員の委嘱について
<第175回> 5月28日(火)	17	・ 平成24年度事業報告 ・ 平成24年度一般会計決算 ・ 平成24年度収益事業特別会計決算 ・ 平成25年度一般会計資金収支補正予算案 ・ 職員退職手当支給規程の一部改正案
<第176回> 7月11日(木)	18	・ 評議員の委嘱について ・ 職員の給与に関する規則の一部改正案

＜第177回＞ 8月27日(火)	19	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員の委嘱について ・ 定款の一部変更案 ・ 平成25年度一般会計資金収支補正予算案 ・ 経理規程の一部改正案
＜第178回＞ 11月18日(月)	21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定款施行細則の一部改正案
＜第179回＞ 平成26年 2月4日(火)	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員の委嘱について
＜第180回＞ 3月27日(木)	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定款の一部変更案 ・ 経理規程の全部改正案 ・ 平成26年度事業計画案 ・ 平成26年度資金収支予算案 ・ 諸規程の一部改正案 ・ 福岡市社会福祉協議会経営計画案

(2) 評議員会の開催

実施日	出席者数	審議事項等
＜第170回＞ 平成25年 5月2日(木)	50	<ul style="list-style-type: none"> ・ 監事の選任について
＜第171回＞ 5月28日(火)	56	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年度事業報告 ・ 平成24年度一般会計決算 ・ 平成24年度収益事業特別会計決算 ・ 平成25年度一般会計資金収支補正予算案 ・ 理事の選任について
＜第172回＞ 7月3日(水)	56	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事の選任について
＜第173回＞ 8月27日(火)	58	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事の選任について ・ 監事の選任について ・ 会長の選任について ・ 副会長の選任について ・ 定款の一部変更案 ・ 平成25年度一般会計資金収支補正予算案
＜第174回＞ 平成26年 2月4日(火)	48	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副会長の選任について ・ 理事の選任について
＜第175回＞ 3月27日(木)	57	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定款の一部変更案 ・ 平成26年度事業計画案 ・ 平成26年度資金収支予算案 ・ 理事の選任について ・ 福岡市社会福祉協議会経営計画案

(3) 監査の実施

実施日	出席者数	監査事項等
平成25年5月15日(水)	3	業務執行の状況及び財産の状況を監査

【別表1】

福岡市民間社会福祉事業従事職員福利厚生共済制度 事業実施状況

(1) 給付事業

内 容		決算額	
種 別	単価 (円)	件 数	金額 (円)
結婚祝金	30,000	138	4,140,000
出産祝金	30,000	135	4,050,000
入学祝金	30,000	135	4,050,000
義務教育修了祝金	30,000	80	2,400,000
死亡見舞金		45	1,450,000
本人	100,000	2	200,000
被扶養者	70,000	3	210,000
その他	26,000	40	1,040,000
傷病見舞金	40,000	9	360,000
災害見舞金		0	0
全焼(壊)	100,000	0	0
半焼(壊)	70,000	0	0
その他	30,000	0	0
特別結婚祝金	30,000	8	240,000
小 計		550	16,690,000
退会一時金	支給率で算出	657	80,273,070
合 計		1,207	96,963,070

(2) 貸付事業

内 容		決算額	
種 別	貸付限度額 (円)	件 数	金額 (円)
生活資金		14	2,260,000
5年未満	120,000	3	360,000
5年以上	150,000	3	450,000
10年以上	200,000	8	1,450,000
慶弔資金	250,000	0	0
医療資金	250,000	0	0
入学資金		3	750,000
高 校	250,000	3	750,000
大 学	500,000	0	0
罹災資金	500,000	0	0
合 計		17	3,010,000

(3) 長期加入職員記念品贈呈事業

区 分		決算額	
加入期間	記念品額 (円)	件 数	金額 (円)
5年	5,000	240	1,200,000
10年	10,000	113	1,130,000
15年	10,000	49	490,000
20年	15,000	49	735,000
25年	15,000	13	195,000
30年	20,000	12	240,000
35年	20,000	9	180,000
送 料			64,890
合 計		485	4,234,890

(4) 保養所事業

内 容		決算額	
区 分	補助額 (円)	件 数	金額 (円)
大 人	2,500	117	292,500
小 人	1,200	8	9,600
合 計		125	302,100

(5) 文化体育事業

内 容		決算額	
区 分	補助額 (円) 等	件 数	金額 (円)
文化鑑賞引換券補助	3,200	4,274	10,680,500
映画鑑賞補助	費用の一部	9,096	2,257,290
観劇補助	費用の約1/3	286	1,684,500
プロ野球観戦補助	費用の約1/3	402	755,015
Jリーグ観戦補助	費用の約1/3	40	55,000
海浜プール利用補助	費用の一部	591	339,650
スポーツ施設利用補助	費用の一部	57	57,000
合 計		14,746	15,828,955

【別表2】

福岡市市民福祉プラザ 利用状況

区 分		利用状況		
貸 出 施 設	ふくふくホール	利用日数	247 日	
		利用者数	37,520 人	
	会議室（3室）	利用日数	987 日	
		利用者数	41,207 人	
	研修室（7室）	利用日数	2,229 日	
		利用者数	99,087 人	
	和室・実習室（7室）	利用日数	1,612 日	
		利用者数	45,273 人	
	交流ひろば	利用日数	248 日	
		利用者数	7,328 人	
	計	利用日数	5,323 日	
		利用者数	230,415 人	
	そ の 他 の 施 設	福祉用具展示場	利用者数	23,577 人
		視察・施設見学	団体数	58 団体
利用者数			1,706 人	
ボランティアルーム等		利用件数	3,312 件	
		利用者数	15,673 人	
福祉図書・情報室		開室日数	338 日	
		利用者数	30,102 人	
		新規登録者数	441 人	
		貸出冊・本数	12,510 冊	
		対面朗読	497 人	
計	利用者数	71,058 人		
利用者総数		301,473 人		
開館日数		346 日		
1日平均利用者数		871 人		